日本語の能力に応じた指導プログラム例

日本語の能力	全く分からない	日常会話ができるまで	在籍学級の授業に参加できるまで
日本語の学習段階	初期の前期段階	初期の後期段階	教科につながる学習段階
日本語指導の大目標	大目標①	大目標②	大目標③

※指導時間数や児童生徒の状況などによって異なるが、初期の 前期段階は6か月以内に、後期段階は1年以内に通過できることが望ましい。
在籍学級の授業に参加できるまでには相当の年月（数年）が必要だ、という感想が指導経験者からは多く聞かれる。

「JSL評価参照枠」のステージ：ステージ1 → ステージ2 → ステージ3 → ステージ4 → ステージ5 → ステージ6

「JSL評価参照枠」の各ステージの詳細は『外国人児童生徒のためのJSL対話型アセスメントDLA』（文部科学省）を参照。

日本語指導のﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ例

（小学校低・中学年）

ｻﾊﾞｲﾊﾞﾙ日本語
→ 挨拶や体調を伝える言葉、教科名や身の回りの物の名前などを知って使えるようにする。

日本語基礎（文字・表記・語彙・文法）
→発音の練習、文字の習得、語彙を増やす、簡単な文型を学ぶ。　学校への適応や教科学習に参加するための基礎的な力をつける。

日本語と教科の統合学習（JSLカリキュラム）
→教科の学習内容を理解すること、日本語を学ぶことを組み合わせて学習する。

教科の補習→在籍学級での学習内容を、先行して学習したり、復習したりする。

（小学校高学年以上）

ｻﾊﾞｲﾊﾞﾙ日本語

日本語基礎（文字・表記・語彙・文法）

技能別日本語（「聞く」「話す」「読む」「書く」活動）→まとまった内容を聞いたり話したりする力、目的を持って話し合いをする力や議論する力、文章を書いたり読み取ったりする力などに焦点を当てた学習。

日本語と教科の統合学習（JSLカリキュラム）
→教科の学習内容を理解すること、日本語を学ぶことを組み合わせて学習する。

教科の補習→在籍学級での学習内容を、先行して学習したり、復習したりする。

各プログラムの詳細は『外国人児童生徒受入れの手引き』（文部科学省）P26～を参照。

★各プログラムを効果的に組み合わせ、一時間の指導計画を立案する。

大目標① 日本の学校生活や社会生活に関する最低限のルールを理解し、意思疎通を単語レベルでできるようにする。
日本の学校生活において、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。

大目標② 日本の学校生活や社会生活に関する理解を深め、日本語で学校生活に参加するために必要な文字や文など基礎的な日本語の力を育てる。
日本の学校生活や社会生活において、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。

大目標③ 教科等において、課題をつかむ・探求する・まとめる等の様々な学習活動に日本語で参加することができる。

【作成】日本語指導が必要な児童生徒を対象とした指導の在り方に関する検討会議

学 習 目 標 例

【参考】文部科学省『外国人児童生徒のための JSL 対話型アセスメント（DLA）』
【作成】日本語指導が必要な児童生徒を対象とした指導の在り方に関する検討会議

【初期の前期段階　大目標例】

・日本の学校生活や社会生活に関する最低限のルールを理解し，意思疎通を単語レベルでできるようにする。
・日本の学校生活において，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。

【初期の後期段階　大目標例】

・日本の学校生活や社会生活に関する理解を深め，日本語で学校生活に参加するために必要な文字や文など基礎的な日本語の力を育てる。
・日本の学校生活や社会生活において，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。

【学習目標項目例（観点別の目標）】

以下に「話す・読む・書く・聴く」の各技能の観点別の「学習目標項目例」を，日本語を初めて学ぶ段階の「初期指導（前期）」，日常会話ができるまでの「初期指導（後期）」，在籍学級の授業に参加できるまでの「教科につながる学習段階」の段階別に挙げます。

『外国人児童生徒のための JSL 対話型アセスメント（DLA）』（文部科学省・平成 25 年度）には，日本語の発達状況の技能別・観点別「JSL 評価参照枠」が掲載されています。ここに挙げる「学習目標項目例」は，「JSL 評価参照枠」の 6 段階のステージと対応をしています。

対象児童生徒の「個別の指導計画」を作成する際に，例えば「指導対象の児童の書く力は JSL 評価参照枠のステージ 1 の段階なので，来学期はステージ 2 の a，b を学習目標とする」というように日本語の力に応じた「学習目標」を設定することができます。

在籍学級の授業に参加できるまでの指導で，「JSL カリキュラム」との関連で指導計画を作成する場合は，「教科につながる学習段階」の資料を参照してください。

★「JSL 評価参照枠」の６段階のステージと「個別の指導計画」の学習目標項目の段階と『外国人児童生徒受入れの手引き』の日本語プログラムとの関係について

「JSL 評価参照枠」		「個別の指導計画」の学習目標項目の段階	『外国人児童生徒受入れの手引き』の日本語プログラム
ステージ	学齢期の子どもの在籍学級参加との関係		
1	学校生活に必要な日本語の習得が始まる。	初期指導（前期）	サバイバル日本語
2	支援を得て，学校生活に必要な日本語の習得が進む。	初期指導（後期）	日本語基礎
3	支援を得て，日常的なトピックについて理解し，学級活動にも部分的にある程度参加できる。	教科につながる初歩的な学習	技能別日本語
4	日常的なトピックについて理解し，学級活動にある程度参加できる。	教科につながる基礎的な学習	日本語と教科の統合学習
5	教科内容と関連したトピックについて理解し，授業にある程度の支援を得て参加できる。	教科につながる学習	教科の補習（適宜）
6	教科内容と関連したトピックについて理解し，積極的に授業に参加できる。	教科学習	

＜話す＞				
JSL評価参照枠のステージ	指導の段階	「個別の指導計画」のための学習目標項目例		○他技能との関係 ●指導のヒント
1	初期指導（前期）	a	周囲で話されている日本語に関心を持ち，積極的に使おうとする。	○母語を使うことができない環境に置かれているため，非言語的なコミュニケーションの方法で，注意を引いたり，何かを要求したりする。また周囲を観察したり，行動を試したりしながら，学校生活や日本語に関する情報を集めている段階である。 ○「聞く」力を土台にして「話す」力が育つ。（聞いてわからないことは，話せない。） ○「話す」力の習得には個人差があり，話し出す前に長い「沈黙期」を必要とする場合もある。 ●発話を強要せずに，自分から発話するまでじっくり待つ。
		b	毎日使う自分の持ち物や，教室にあるものの名前を言う。	
		c	支援を得て，簡単な自己紹介をする。 （例：名前や学年など）	
		d	周りの人が言う簡単なあいさつや短い単語，定型表現を真似して繰り返す。 （例：「ありがとう」「おはよう」「書いて」など）	
		e	周りの様子を見て，行動を真似ながら，それに伴う語句を言う。（例：「起立，礼」）	
		f	自分に関する基本的な質問に対して，単語レベル（「はい（うん）」／「いいえ（ううん）」）や身振り手振りで答える。	
		g	ジェスチャーや表情や簡単な単語を使って，学校生活に必要な最低限の意思疎通を行う。 （例：「だめ」，「トイレ」，「ごはん」など）	
2	初期指導（後期）	a	自分自身のことについて，簡単な質問を理解し単語レベルで話す。 （例：年齢，家族の人数や構成，出身国など）	●まだ流暢度を欠き，活用が不正確であったり，語順が乱れたりするが，楽しく対話に参加できるような配慮をする。 ●日本語の摂取量が多くなるように座席の指定や仲間作りに配慮する。
		b	毎日の生活に関することを頻度の高い単語や定型表現を使って話す。	
		c	体調を訴えたり，許可をもらったり，簡単な質問をしたりする。（例：「おなか，痛い」「ノート，わすれた」）	
		d	日常生活でよく使われる語彙や表現を使って話す。	
3	教科につながる初歩的な学習	a	聞きなれた言葉を組み合わせて，自分自身のことや身近な出来事について，主に単文を使って話す。 （例：好き嫌い，毎日の習慣，昨日あったことなど）	●まだ文法的な間違いが多く，語彙も多くないが，子どもの発言の主旨を汲み，やりとりの中で表現したい内容を引き出し，不足している語彙や表現を補充して，いいモデルを示す。 ●単語レベルで答えられる質問から，文レベルの答えが必要な質問へと変えていく。
		b	日常的な内容についての質問に，簡単な日本語で自分の感想や考えを言う。	
		c	学校生活や学習場面で必要となる要求表現等を，簡単な日本語で伝える。	
		d	学校生活で必要となる場面で，質問をする。	
		e	自ら，一対一の会話に参加する。	

4	教科につながる基礎的な学習	a	連文（2，3 文）を使って，日常の出来事（過去の経験を含む）や学習のことについて，意味の通じる話をする。	○日常的な会話が流暢にこなせるようになる。 ●朝の会での短いスピーチなど，日本語使用の機会を増やす。 ●普段あまり聞かない教科と関連した語彙や表現はまだ使えないので，その点に留意した指導が必要である。 ●取り出し指導で学んだことが，在籍学級の学習の場で活かせるような教員間の情報共有が大切である。
		b	自分から質問したり，説明したりして，教科学習にある程度参加する。	
		c	教科と関連のあるテーマで，自分の意思や相手に伝えるべき内容を，簡単な日本語で発表する。	
		d	授業の中でグループ学習に参加する。	
5	教科につながる学習	a	さまざまなトピックの会話に積極的に参加する。	○教科と関係のあるトピックでも流暢に話せるようになる。 ●教科学習に必要な語彙や表現を使って話す機会を増やすとよい。 ●日本語スピーチコンテストなど，大勢の人の前で話したり，発表したりする経験も有効である。
		b	学習内容について，複文を使いながら，順序立てて話す。	
		c	（多くはないが）教科学習の語彙を使って，まとまった説明や発表をする。	
		d	教科学習におけるグループでの話し合いに参加し，発言をする。	
		e	（間違いはあるが）丁寧表現や敬語を使った会話に参加する。（小学校高学年以上の場合）	
6	教科学習	a	年齢相応の教科用語を使って，一人でまとまった話をする。	○複数の聴者に対して適切な話し方ができる。 ●異なった文化的背景から来る子どもの視点や意見を引き出すように指導するとよい。
		b	教科内容に関連した話し合いに積極的に参加する。	
		c	相手や場面・目的に応じて，効果的な表現方法を用いて話す。（例：教科学習のプレゼンテーション，ディベートなど）	
		d	クラス全員に対して，学習内容について，教科用語を使い筋道を立てて詳しく説明したり，発表したりする。	
		e	丁寧表現や敬語を使った会話に参加する。 （小学校高学年以上の場合）	

＜読む＞（文字・表記　＋　読み・読解力）				
JSL評価参照枠のステージ	指導の段階	「個別の指導計画」のための学習目標項目例		○他技能との関係 ●指導のヒント
1	初期指導（前期）	a	日本語で書かれた自分の名前や普段よく使う単語を識別する。	○「聞く」力の方が「読む」力よりも強い。 ●学校図書館の利用方法について教え，日本語が読めなくとも楽しむことのできる図書を紹介する。 ●文字や簡単な単語が母語で読めない場合は，日本語の文字の習得にも時間がかかると考え，指導計画を作成する。
		b	文字と音とが対応することを理解する。 （例：平仮名の「あ」を見て/a/と発音する。） （小学校低学年の場合）	
		c	平仮名をいくつか読む。	
		d	よく耳にする馴染みのある短い平仮名の語を読む。	
		e	視覚的な支援のある絵本や紙芝居などの読み聞かせを楽しむ。	
2	初期指導（後期）	a	特殊音節（長音，拗音，撥音，促音）を含む平仮名の単語を読む。	○漢字の読みと書きについては，書きの方が習得に時間がかかる。しかし，漢字圏出身の子どもは，書きの方が早い場合も多い。 ○「読む」力は，年齢や母語の学習体験によって習得の度合いが異なる。特に小学校低学年の場合は，2i，2j，2kに，より時間がかかる。 ●漢字は学年より下でも，内容は年齢相応の話題を選ぶ。 ●母語と共通の数字や記号（＋－×÷＝など）を組み合わせて，数の読み方を練習させながら，基本的な計算力のチェックができる。また，それにより，日本語の学習だけでなく文章題が扱えない間，計算問題で既習学力の維持を図ることもできる。
		b	分かち書きで書かれた短い文を音読する。	
		c	句点や読点について理解する。	
		d	助詞の「は」，「へ」を文中で正しく読む。	
		e	縦書き・横書き，一字下げ，句読点など，表記法のルールを理解する。	
		f	片仮名をいくつか読む。	
		g	片仮名で書く語彙の種類を理解する。	
		h	特殊音節（長音，拗音，撥音，促音）を含む片仮名の語彙を読む。	
		i	小学校１年で学習する漢字をいくつか読む。 （象形文字や指示文字）	
		j	絵などの支援を得て，日常生活でよく使われる語彙で書かれた短文を読んで理解する。	
		k	絵などの支援を得て，片仮名や小学校１，２年の学習漢字が混じった文を読んで大意を理解する。	
3	教科につながる初歩的な学習	a	文節や意味のまとまりで区切って読む。	●幼児期に本に親しむ経験のない子どもには，読み聞かせをするとよい。 ●小１，２程度の漢字学習が終了したら，あとは学年別漢字配当にこだわらず，現在学習している教科で頻出している漢字を学ばせるようにする。（特に，算数・数学
		b	日常生活でよく使われる語彙（教科名，曜日，標識など）を読んで意味が分かる。	
		c	学年より下の学習漢字が混じった短文を読んで大意を理解する。	
		d	絵ややりとりなどの助けを得て，学年より下のレベルの親しみのある内容のテキストを読んで大意を理解する。	

		e	未習の語彙を推測によって読む。	は頻繁に使われる漢字がある。） ●沢山の本や文章を読む機会を作り，読書量を増やし，読書習慣をつける。
		f	単語の並び順や見出し語（活用のないことば）を理解して，辞書（日本語から母語）を使う。 （小学校中学年以上，母語で読む力がある場合）	
4	教科につながる基礎的な学習	a	教科用語の入った短い文章を読んで，大意を理解する。	○「読む」力が「聴く」力に近付いていく。 ○高学年や母語の読みの力の高い児童では音読よりも黙読を好む子どもが現れる。 ●いろいろな種類の本や文章に親しむ機会を作り，読書の幅を広げる。
		b	漢字の基本的構成（部首，音訓，筆順，送り仮名など）を理解する。	
		c	支援を得て，物語文を読み，登場人物や場面について理解する。	
		d	支援を得て，説明文を読み，時間的な順序や事柄の順序などについて理解する。	
		e	段落の意味を理解して，その内容を大体読み取る。	
		f	読むことを通して新しい知識・アイディア・感情・態度などを学ぶ。	
5	教科につながる学習	a	教科特有の語彙の入った文章を読んで，大意を理解する。	○高学年では黙読の方が音読よりも速くなる。 ○母国で学習経験のある漢字圏出身の中学年以上の児童生徒は，さらに早い時期から漢語や漢熟語が入った文章を理解する。 ●自分の学習をコントロールし，自律的に学習を進めていけるような支援を行う。 ●話し言葉と書き言葉の違いがはっきり認識できるように指導する。
		b	複数の段落のある文章の大意を理解する。	
		c	手紙文，観察文，報告文，説明文など，いろいろな種類の文章を読み，大意を理解する。	
		d	本や文章を読み，疑問点を質問したり，考えたことを発表したりして，内容の理解を深める。	
		e	本や文章を読み，重要な点を抜き出したり，感想文を書いたりして，内容の理解を深める。	
		f	未習の語彙，漢字，複雑な文構成の文の意味を推察する。	
		g	漢語・漢熟語が入った文章を読んで大意を理解する。 （小学校高学年以上の場合）	
6	教科学習	a	語彙表や辞書などの助けを得て，学年相応の教科書を読んで大意を理解する。（小学校中学年以上の場合）	●自分の考えを形成する読み方を指導する。 （感想や批評を述べたり，情報を比較するなど。小学校高学年以上）
		b	手紙文，観察文，報告文，説明文など，いろいろな種類の文章を読み，分野やジャンルによる構成や表現の違いを理解する。（小学校中学年以上の場合）	
		c	未習の語彙，漢字，文構成があっても読みの流れを止めずに大意を理解する。	
		d	文章全体の大意を把握し，自分なりの意見や感想を持つ。	

＜書く＞（文字・表記　＋　作文力）

JSL評価参照枠のステージ	指導の段階		「個別の指導計画」のための学習目標項目例	○他技能との関係 ●指導のヒント
1	初期指導（前期）	a	筆記道具の持ち方や姿勢に注意して書く。（小学校低学年の場合）	○書きたいことを絵や文字で示そうとする。（特に小学校低学年の場合） ●「話す」力の方が，「書く」力よりずっと強いので，絵で示したことを話す機会をつくるとよい。 ●母語で読み書きの指導を受けておらず，自分の名前も簡単な単語も書けない場合は，日本語の文字の習得にも，より時間がかかると考えて，指導計画を作成する。
		b	自ら経験したことを絵や単語（日本語か母語）で示す。	
		c	大きなマス目の中に文字を書く。（小学校低学年の場合）	
		d	文字と音とが対応することを理解する。（例：/a/と発音して平仮名の「あ」を書く）（小学校低学年の場合）	
		e	自分の名前や普段よく使う単語を書く。	
		f	いくつかの平仮名や，馴染みのある短いの平仮名の語を書く。	
2	初期指導（後期）	a	いくつかの片仮名や，馴染みのある片仮名の語を書く。	○話し言葉をそのまま文字にしようとする。 ●多少地域特有の言い回しが混じっても，容認する。 ●生活日記などを通して，「です・ます」の文章に慣れさせる。
		b	平仮名や片仮名で，特殊音節（長音，拗音，撥音，促音）を含む単語を書く。	
		c	小学校１年で学習する漢字をいくつか書く。（象形文字や指示文字）	
		d	助詞の「は」，「へ」及び「を」を正しく書く。	
		e	平仮名や片仮名や基礎的な漢字を使い分けて文を書く。	
		f	毎日の生活に関する事柄について，頻度の高い単語や定型表現，基本文型などを使って，連文（２，３文）を書く。（例：３～５行程度の生活日記など）	
		g	自分と関係のあるテーマについて，日常よく使われる語彙や慣れ親しんでいる表現を使って，短い文を書く。	
3	教科につながる初歩的な学習	a	日常使う漢字表記の語彙（教科名，曜日，標識など）を書く。	●課題作文は，書く範囲を限定し，テーマを具体的に指示すると書きやすい。 ●文法的な誤用の多い時期であるが，間違いを通して，正確な文構成に気付くように支援する。 ●小１，２程度の漢字学習が終了したら，板書は学年相応の漢字で書き，未習漢字に振り仮名をつけ，ノートに視写するように指導する。
		b	年齢より下のレベルの漢字を書き順や送り仮名などに注意して書く。	
		c	教師が示すモデルにそって，平仮名，片仮名，漢字を使い分けて文章を書く。	
		d	学校の行事など経験した事柄について，順序に沿って簡単な構成の文章を書く。	
		e	観察したことを記録する簡単な文章を書く。	
		f	物語の好きな場面について，簡単な感想を書く。	
		g	段落に分けて文章を書く。	
		h	支援を得て，書こうとすることの中心を明確にして作文を書く。	
		i	句読点，一字下げ，カギ括弧など，表記上のルールに留意して文を書く。	

		j	原稿用紙を正しく使って文章を書く。	
		k	書いた文を読み返し，教師やクラスメイトの支援を得て，文字や語句の誤りを直す。	
4	教科につながる基礎的な学習	a	基本的構成（部首・音訓・筆順・送り仮名など）を理解して,学年よりやや低いレベルの漢字を使って書く。	○「です・ます」体で統一された文章が書けるようになる。 ●読書の幅を広げ，いろいろな種類の文章に親しむ機会を作る。 ●母語で作文やレポートを書いた経験がある児童生徒は，日本語で作文を書く時も文の構成等を理解しやすい。
		b	興味のある課題に対して，日常語彙を使って作文を書く。	
		c	書き言葉や教科用語を使って文章を書く。	
		d	会話文，書き出しやしめくくり，簡単な喩えなど表現の工夫をしながら書く。	
		e	誤用はあるが，さまざまな構成の文を使って，意味の通じる文章を書く。	
		f	意味のまとまりのある段落に分けて文章を書く。	
		g	書いた文章を読み返し，自分で間違いなどに気付き，ある程度推敲をする。（小学校中・高学年以上の場合）	
5	教科につながる学習	a	参考資料や辞書を使い，資料を収集して文章を書く。	○「話し言葉」と「書き言葉」では，語彙や表現，文体（例：「です・ます」体，「だ・である」体など）などが異なることに気付く。 ○「書く」力は，年齢や母語の学習体験によって習得度が異なる。5a～5g は小学校中・高学年以上を想定している。 ●場面や目的に応じて，語彙や表現，文体を使い分けることを指導する。 ●書き言葉的な表現を積極的に使うように指導する。
		b	内容に見合った語彙や表現や文体を使って作文を書く。	
		c	話し言葉と書き言葉の違いを意識して，学年相応に近い漢字や漢熟語を使って作文を書く。	
		d	敬体と常体の違いに留意して，統一のとれた文体で文章を書く。	
		e	内容を複段落にまとめ，段落間のつながりに留意して書く。（例：接続表現）	
		f	複雑な文構成（例：従属節など）を含む文章を書く。	
		g	書いた文章を読み返し，読み手の立場に立って推敲する。	
6	教科学習	a	内容に見合った長さの作文を書く。	○作文を書く前の準備と書いた後の推敲をするようになる。 ●テーマに適した漢語･漢熟語の使用や日本語特有の文末表現（例：断定せず，問いかけで終わるなど）を使うように指導する。
		b	内容が豊かで，全体の構成を考えた複段落の作文を書く。	
		c	テーマに見合った適切な語彙や学年相応の漢字を使って書く。	
		d	表記上，文法上，正確度の高い文章を書く。	
		e	書く前に,参考資料や辞書を使ったりして，考えをまとめてから書く。（小学校中学年以上）	
		f	目的や読み手に合わせて，手紙文，観察文，報告文，意見文など，分野やジャンルによる構成や表現の違いに留意して文章を書く。（小学校高学年以上）	
		g	書いた文章を読み返し，文章全体を意識して推敲をする。（小学校高学年以上）	

＜聴く＞				
JSL評価参照枠のステージ	指導の段階		「個別の指導計画」のための学習目標項目例	○他技能との関係 ●指導のヒント
1	初期指導（前期）	a	周囲で話されている日本語に関心を持ち，聴いて理解しようとする。	○「聴く」力が「話す」ことの基礎になる（つまり，聴いて理解できないことは話せない）。 ●聴いたことを口頭ですぐに言うことを強制せず，子どもが自発的に発話するまで待つことが大切である。
		b	簡単な挨拶や日常よく使われる定型表現を聴いて，繰り返す。 （例：「おはよう」，「ありがとう」，「またあとで」）	
		c	健康や安全に関する簡単な指示を聴いて，理解する。 （例：「手を洗って」，「あぶない」）	
		d	周囲の仲間やクラスメイトの簡単な日本語の語りかけを状況で判断し，関係づくりに加わろうとする。	
2	初期指導（後期）	a	日常生活でよく使われる語彙・表現を聴いて理解する。	●やりとりの中で，子どもの単語レベルの発話を，文レベルにして返すとよい。
		b	自分自身のことについての簡単な質問を大体理解し，やりとりに参加する。 （例：年齢，好きなもの，家族の人数や構成，出身国など）	
		c	学校での日課に関する指示を聴いて，適切に従う。	
		d	新しく耳にする語彙や語句を聴いて，繰り返す。	
		e	学校生活に関係のある連文（2，3文）の簡単な指示や質問を，ゆっくりとした速さで繰り返し聞き，その内容を推察する。	
		f	実物や絵，身振りなどの支援を得て，ゆっくりとした速度の平易な言葉を使った１対１の会話を理解する。	
3	教科につながる初歩的な学習	a	身近な内容について，連文の短い話を聴いて，大意を理解する。	○学年が上がるにつれて，在籍学級で使われる教科特有の語彙や表現の理解が難しくなる。 ●教科につながる学習段階の具体的な支援の例については，『学校教育におけるＪＳＬカリキュラム中学校編』の各教科の「Ⅱ．日本語支援の考え方とその方法」に「支援の具体例」（ｐ．13～18）が掲載されているので，参考にしていただきたい。
		b	体育，音楽などの実技系の授業で，教師の話を理解し，簡単な指示に従う。	
		c	実物や絵，身振りなどの支援を得て，普通の速さの教師の話（例：「運動会のお知らせ」など）を聴いて大体理解する。	
4	教科につながる基礎的な学習	a	身近な内容のまとまりのある話を聴いて，大意を理解する。	
		b	授業のテーマに関連した内容について，平易な言葉で説明を聴いて，大体理解する。	
		c	授業のテーマに関連した教科用語や表現を聴いて，一部理解する。	
		d	自分の分からないことを聴き直したり尋ねたりする。	
		e	グループでの話し合いに参加し，大意を理解する。	

5	教科につながる学習	a	教科学習の内容に関心を持ち，集中して聴く。	●聴いて分かる教科用語や表現を板書や視写などを通して，漢語･漢熟語力につなげる。
		b	教科学習で，教師が説明する内容の大筋と流れをある程度理解する。	
		c	授業のテーマに関連した書き言葉的な語彙や表現を聴いてある程度理解する。（小学校中・高学年以上）	
		d	教科学習で，グループや学級全体の話し合いや発表を聴いて，大意を理解する。	
		e	丁寧な表現を使った文を聴いて，その意味を大体理解する。	
6	教科学習	a	通常のスピードで進む教科学習の中で，教師が説明する内容の大筋を理解する。	●教科用語をただ聴いて分かるだけでなく，自分でも使える語彙にするために，話の内容を再話させる機会を与えるとよい。
		b	教科学習で，学級全体の話し合いや発表に積極的に参加する。	
		c	授業のテーマに関連した抽象的な語彙や表現を聴いて理解する。（小学校高学年以上）	
		d	丁寧な表現も含め，様々なスタイルの文章を聴いて理解する。（小学校高学年以上）	

【参考となる母語の力】

子どもがどの程度，母語（あるいは第一言語，Ｌ１）で「聴く」「話す」「読む」「書く」力があるかによって，その後の日本語の伸びが違ってきます。

母語を使って年齢相応の教科学習を行った経験がある子どもは，その経験を踏まえて日本語の学習言語の習得も速くなる傾向があります。

しかし，何らかの理由で学校教育に断絶があり，年齢相応の学習を経験していない子どもの場合は，「聴く」「話す」はできても，「読む」「書く」や学習言語の習得に時間がかかります。

日本生まれや幼児期に来日した子どもは，日本語を流暢に話しても，母語の語彙は少なく，母語ではほとんど会話ができない状況にあるのが普通です。母語での教科学習経験がないため，学習言語の獲得に時間がかかります。

言語習得上何らかの機能的障害がある場合は，日本語と母語に同じような兆候が現れます。

学校に転編入する際の面接などで，母国での就学経験・成績，家庭内言語など，母語に関する状況を聞いて把握するとよいでしょう。

学 習 目 標 例　～教科につながる学習段階～

【参考】一般財団法人波多野ファミリスクール作成資料
【作成】日本語指導が必要な児童生徒を対象とした指導の在り方に関する検討会議（参考資料に加筆・修正）

【教科につながる学習段階　大目標例】

・教科等において、課題をつかむ・探求する・まとめる等の様々な学習活動に日本語で参加することができる。

★「個別の指導計画」の「指導目標」欄に記載する場合は、教科および当該学年を記入するとより具体的になる。

［ 記入例 ］

＊	指導目標	（注釈）
①	小学校５学年程度の	在籍学年または習得目標学年
②	算数・理科等の教科学習において、	主として扱う教科名
③	課題把握･情報収集･観察等の様々な学習活動に	代表的な学習活動
④	日本語で参加することができる。	全員に共通した課題

【参考：「教科につながる学習」の基本的な考え方】

①教科内容の習得と教科学習レベルの日本語の習得は、切り離して考えるものではない。
⇒教科学習レベルの日本語は、
ア）教科内容を母語で理解していれば、日本語の学習だけで習得されるが、
イ）理解していなければ、教科内容の学習を通して習得されると考えられる。

②各教科とも共通して、授業は基本的に以下のような学習活動によって構成されている。

≪学習活動とその概要≫

<table>
<tr><th rowspan="2">学習の流れ</th><th colspan="2">導入　→</th><th>→　→　→　展開　→　→　→</th><th>→　まとめ</th></tr>
<tr><th colspan="2">情報の受け入れ</th><th>情報の観察・分析・考察</th><th>情報の活用</th></tr>
<tr><td rowspan="4">学習活動</td><td>1
課題を把握する
聞く･読む･見るなど</td><td>2
情報を収集する
写真・図・表・グラフ等の収集
見学・体験・聞き取りによる収集など</td><td>3 観察する
実物や資料などの数量･形状･状態･動き・変化などを観察して分析的・統合的思考の資料を作成する。</td><td rowspan="2">7－１　整理する
言語化･図表化･式化、命名、結論づけなどをして情報を整理し、既有知識の中に位置づけ、系統化する。</td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td>4 操作する
分ける・合わせる・比べる・並べる・選ぶなどの操作や実験を通して分析的・統合的思考の資料を作成する。</td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td>5 分析的に考える
因果関係･依存関係･位置関係、役割･構造･機能･働きなどを分析的に考察する。</td><td>7－２　発信する
媒体化する。レポート、ポスター、新聞などに表す。</td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td>6 考えをまとめる
関連づけ･条件づけ･仮定･予想･推測･視点変換などを通して複数のものを統合的に考察する。</td><td>7－３　活用する
解決する。
応用する。
新たな課題を発見する。</td></tr>
</table>

【学習目標例】

＊下記に示したような「活動と関係する日本語」を教科内容の学習を通して習得していく。

＊習得した日本語を用いながら、各教科等の学習に取り組むことができるようにする。

▸「活動と関係する日本語の例」及び「日本語の使用例」の欄には、様々な学年・教科の学習で出てくる表現を例として挙げている。

▸「記載された表現だけ習得すればよい」ということではなく、児童生徒の日本語の習得状況に応じ、教科学習を通して習得させたい日本語表現や、日本語を用いて参加させたい学習活動について、あらかじめ整理しておくことが必要である。

（なお、この表の「活動と関係する日本語の例」と「日本語の使用例」は必ずしも全て対応しているとは限りません。また、同じ日本語の例が複数欄に記載されている場合があります。）

日本語学習の目標		活動と関係する日本語の例	日本語の使用例
1 課題を把握する活動に日本語で参加できる	①問いかけの言葉が分かる。	だれ・どこ・いつ・なに なぜ・どうして どのように（どう） どのような（どんな） どうしたら・どうすれば ～に気づくか。 ～が分かるか。	・なぜ、このような道具を使うのでしょうか。 ・日本はどのようにして条約を改正したのか。 ・流れる水にはどのようなはたらきがあるか。 ・坂道で自転車の速さはどうなるのだろうか。 ・どんな材料を使っているのかな。 ・この絵を見て、どんなことに気づきますか。 ・長さをはかるには、どうすればいいかな。
	②テーマや課題等を提示したり、取り組みを勧めたりする言葉が分かる。	めあて・目標・ねらい ～について～する。 ～に関して～する。 前～は～。今（本）～は～。 考える。 調べる。 確かめる。 ～てみる。	・今日の学習のめあては～です。 ・今日は「ものの溶け方」について勉強します。 ・企業の役割に関して 考え よう。 ・前章で～を学んだ。本章では～を考え よう。 ・～の気持ちを考え ましょう。 ・週に２日しか漁をしない理由を調べ よう。 ・～の変化を調べ ましょう。 ・電磁石ができたか、確かめて みよう。
	③経験や知識を想起させる言葉が分かる。	～したことがあるか。 知っているか。 覚えているか。 同じもの・似たものを～。	・スーパーで米袋を見たことがありますか。 ・おばあちゃんに子どもの頃の話を聞いたことはありますか。 ・同じような虫を知っていますか。 ・水の流れで土が削られたのを覚えていますか。 ・母国で～と似ているものはありましたか。

日本語学習の目標		活動と関係する日本語の例	日本語の使用例
2 情報を収集する活動に日本語で参加できる	①資料収集するための方法と言葉が分かる。	調べる・集める 借りる・返す ～方　（手段）で～。 資料・図書館・検索 ホームページ・アドレス	・調べ 方には、いろいろありますが、～。 ・食品の表示ラベルを集める。 ・図書館の本で調べてみたい。 ・～の小学校のホームページを見てみよう。
	②見学の仕方や見学先で注意することとその言葉が分かる。	見学する。 メモをとる。 ～したいこと 感想 ～に注意する。	・スーパーマーケットに見学に行きました。 ・メモをとって帰ったらまとめよう。 ・聞いてみたいことは何か。 ・～見学で知りたいことは～です。 ・どのような感想をもちましたか。 ・変わった点に注意して見てきましょう。
	③体験するときに注意することや感想を述べるための言葉が分かる。	体験 挑戦 気を付ける。 感じる。 思う。	・～体験で使うものは、～です。 ・お囃子に挑戦することにしました。 ・見学する時に気を付けることは～ ・自分たちで作ったものは、おいしく感じた。 ・捨てるゴミを減らしたいと思った。
	④聞き取りをする方法やそのために使う言葉がわかる。	アンケートをとる。 聞く・質問する。 尋ねる・伺う。 メモをとる。 ～について	・アンケートで調べてみよう。 ・水の管理について電子メールで尋ねてみる。 ・～さんにお話を伺いました。 ・説明されたことのメモをとっておく。 ・～について教えてください。

日本語学習の目標		活動と関係する日本語の例	日本語の使用例
3 観察する活動に日本語で参加できる	①数量・大きさ・形・色などの状態を表す言葉が分かる。	～つ・～個・～本・～枚 ～m・～g・～秒 ～なっている。 固い・柔らかいなど	・段落が 3つ ある。 ・長さは 15mmです。 ・図の中に半径 5cm の円が 3つある。 ・先が丸くなっている。 ・葉が赤くなっている。 ・触ったら、やわらかかった。
	②物の有無・分布などの状態を表す言葉が分かる。	～に～が ある・ いる。 ～に集中している。 ～に偏っている。 分布している。 ～を占めている。 ～から・まで・に延びている。	・高速道路の近くに工場がたくさんあります。 ・大都市に人口が集中している。 ・産出国は中近東の地域に偏っていたが、～。 ・針葉樹は国土に広く分布しており、～。 ・反対意見が 8 割を占めていた。 ・前線が東から西まで のびている。
	③動き方・速さ・方向・区間などの状態を表す言葉が分かる。	～の速さで～する。 ～に向かって ～から～に（へ） 移動する・通過する・通る。 ～を描いて～する。 ～てくる。	・台風が時速 35km の速さで北上している。 ・秀吉は西に向かって勢力を伸ばしていった。 ・低気圧が西から東へと発達しながら通過している。 ・B 地域の米づくりは、4 月から 9 月にかけて行われます。 ・暖かい空気が円を描いて次々に入り込んでくる。

	④状態の変化や変化の仕方を表す言葉が分かる。	増える・減る・増加・減少 ～増・～減・ ～になる。～くなる。 ～化する。 ～により、～となる。 ～できる（出現･完成の意味）。 ～にしたがって～。 ～しながら～する。	・10%増えた。3 割減った。10%増。3 割減。 ・輸出が半減した。輸入が急増した。 ・3 倍になる。3 分の 1 になる。 ・高齢化する。温暖化する。 ・銅が酸化して、酸化銅ができた。 ・時間がたつにしたがって、色がうすくなる。 ・激しく燃焼しながら落下してくる。
	⑤比べて観察するときの言葉が分かる。	共通・類似・相違点・違い どちらが～。～の方が～。 ～より～。 ～が一番（最も）～。	・両方に共通する約数を見つけ、～。 ・どちらが何 cm² 大きいか。 ・バスはじょうよう車よりたくさんの人をのせます。 ・正の数の中で最も小さい自然数は何か。
日本語学習の目標		**活動と関係する日本語の例**	**日本語の使用例**
4 操作する活動に日本語で参加できる	①分割・分離・分配・分類するときの言葉が分かる。	～に分ける。 ～ずつ分ける。 ～を～で割る。 分配する。 ～によって～に分類する。	・半分に分ける。5：4 に分ける。 ・一人に 2 個ずつ分けました。 ・6 を 2 で割る。 ・所得が少ない人に分配する。 ・重さによって 4 つに 分類する。 ・お店ごとに食べ物カードを分類します。
	②合成・集約するときの言葉が分かる。	～と～を合わせて～。 ～になります。 ～に～を足す。 ～に～を加える。 組み立てる。 組み合わせる。 合成する。 ～を集める。	・2 と 3 を 合わせると、いくつになりますか。 ・6 と 4 で 10 になります。 ・ビーカーに 水を少しずつ足していく。 ・マグネシウムに過酸化水素水を 加えると～。 ・この工場で部品を組み立てています。 ・光の力で二酸化炭素と水を合成し、～。 ・工場見学に必要な資料を集める。
	③並べて序列化したり比較したりするときの言葉が分かる。	～順・順番 ～順に並べる。 ～方から～個～する。 ～に並べて比べる。 まず・それから・次に	・生産高が大きい順に並べる。 ・歴史人物の写真を年表の順（年代順）に並べます。 ・小さい方から 3 つ選んで調べる。 ・1 列に並べて長さを比べましょう。 ・まず、どこから計算すればよいか。 ・どのような順番でしますか。 ・絵カードを使って物語のあらすじをいいます。 （起きた順番に話す。）
	④測量したり計算したりするときの言葉が分かる。	数える・測る・記録する。 ～に～を合わせて 計算する・求める。 長さ・面積・体積・角度 速さ・速度 他	・積み木を使って数を数えます。 ・ビーカーで水のかさを測ります。 ・1 秒ごとに移動した距離を記録します。 ・リボンの端を合わせて長さを測る。 ・計算して 体積 を求めなさい。 ・～の式を使って計算しました。

日本語学習の目標		活動と関係する日本語の例	日本語の使用例
5 分析的に考える活動に日本語で参加できる	①原因を表す言葉が分かる。	～から・～ので ～ため・～ために ～と、～になる。 原因・起因・手段・理由	・母が喜んだので花子は～。 ・温度を上げたため、溶ける量も増えた。 ・辺を２倍にすると面積は４倍になる。 ・これが原因となり両国の間で戦争が～。 ・酪農がさかんな理由は、土地が広いからです。
	②関係を表す言葉が分かる。	～する・される。 ～させる・させられる。 ～もらう・～あげる。 ～てもらう・～てあげる。 依存する・頼る・支える。 補う・相互に・～しあう 貸す・借りる・輸出・輸入 比例・反比例	・割る数と割られる数。 ・長時間働かされた。 ・電子を１つもらうと電荷は～。 ・石油は外国からの輸入に依存している。 ・経済協力により相互に発展していく。 ・～とクマノミはどのように支え 合っていますか。 ・銀行から必要な資金を借りて～。 ・ｙはｘに比例し、ｘが１のとき～。
	③位置や立場を表す言葉が分かる。	平行・垂直・直角・対称 向かい（き）合う・反対 対応する・あたる（相当） 交わる・接する 近郊・周辺・郊外	・線分ＡＢと平行な線分はどれか。 ・点Ａに対応する点。 ・～という問題に向き合っていかなければ～。 ・国道と県道が交わる場所は～。 ・大都市の近郊には火力発電所が～。
	④構造や構成、機能を表す言葉が分かる。	～でできて（なって）いる。 ～で作られている・原料 ～倍になっている。 ～あたりの～。 構造・構成・仕組み 働き・機能	・多くの物が石油を原料として作られている。 ・昆虫の体は頭部・胸部・腹部からなっている。 ・この文章は４つの段落で構成されている。 ・ビタミンＡは～する働きをして～。 ・～できる社会の仕組みを考えましょう。

日本語学習の目標		活動と関係する日本語の例	日本語の使用例
6 考えをまとめる活動に日本語で参加できる	①複数の事象を関連づける言葉が分かる。	～するにつれて～。 ～にしたがって～。 ～と、～。 ～ごとに～。 ～ほど～。 ～関係が（に）ある。	・生活が便利になるにしたがってエネルギーを ・震源から遠くなると震度は～。 ・１増えるごとに３減る。 ・傾きが急であるほど変わり方が大きい。 ・両者は比例の関係にある。
	②条件的に考えたり仮定的に考えたりする言葉が分かる	～たら・～れば ～と、～。 ～ても Ａが～とき、Ｂは～。	・コイルの巻き数を増やせば磁力が～。 ・金利を下げないと、お金を借りにくくなり、～。 ・運輸業の～により消費地と離れていても～。 ・ｘが１のとき、ｙはいつもｘの３倍の値だから～。 ・アップでとると細かい部分が分かりますが、ルーズでとると全体が分かります。
	③視点を変えて物事を考えるための言葉が分かる。	～によって～。 ～を変えて、～。 別の～で～。これ以外の～。 ～だけか。 他にないか	・測り方によって結果は変わるだろうか。 ・見方を変え、援助を受ける側の立場で～。 ・別の方法で解くことはできないか。 ・変化したのはそこだけだろうか。 ・～の他に、～していないか。

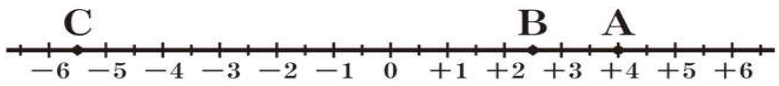
	④資料や経験を基に結果や傾向を推測する言葉が分かる。	～ので・～から・～と ↓ だろう。～と思う。 予測する。予想される。 予想を立てて～する。	・西から天気が崩れてきたので、～だろう。 ・毎朝アサガオの水やりをしたので、大きくなったと思います。 ・食糧自給率が下がり続けると、～だろう。 ・１℃ずつ上がっているから 5 分後の予想される温度は～。
	⑤情報を要約するときの言葉が分かる。	つまり～。 ～ということは、～。 要するに～。 このように	・つまり、林業従事者の減少が森林荒廃の～。 ・～ということは、素数だということになる。 ・要するに CO_2 を減らすことが急務だ。 ・このように私たちの暮らしにとって電気は～。
	⑥方法を表す言葉が分かる。	方法・～方 ～には～。 ～すればよい。 ～ときは～する。	・～を解決するにはどんな方法があるか。 ・相手を説得するためには、多くの資料を揃えた方がよい。 ・割り切れないときは、分数を使って表します。
日本語学習の目標		**活動と関係する日本語の例**	**日本語の使用例**
7 学習内容をまとめ、それを表現する活動に日本語で参加できる	①整理する まとめる作業とそのための言葉が分かる。	～をまとめる・～にまとめる。 整理する。 全体・段落に分ける。 構成を考える。	・模式図でこの時代をまとめよう。 ・分かったこと、伝えたいことをパンフレット・パワーポイント・ビデオ映像などにまとめよう。 ・比較表にまとめて 整理しましょう。 ・全体をいくつの段落に分けて書くか考えて～。 ・全体の構成を考えて～。
	②発信～１ 伝わりやすい表示の仕方とその言葉が分かる。	テーマ・タイトル・ポイント・ 大見出し・小見出し・ スペース 箇条書き 分けて書く。 項目別に書く。 ～を～にして発表する。	・発表にふさわしいタイトルを付けて～。 ・ポイントを短くまとめる。 ・分かりやすい見出しを考えよう。 ・書くスペースが限られているので工夫して～ ・発表することを模造紙に箇条書きにして～ ・項目ごとに分けて書きましょう。 ・勉強したことを、クイズや劇にして発表します。
	②発信～２ 図や表、グラフに表したものの説明ができる	図・表 グラフ・円グラフ・棒グラフ 折れ線グラフ・帯グラフ ～割・～%・占める・表す。	・この円グラフでは、～が～を表しています。 ・このグラフから〇年に～が増えたのが分かる。 ・輸入した食料が、半分以上を占めている。 ・全体の６０%が医療費に関する支出で～
	②発信～３ 図形のきまりなどを説明できる。	～と～は～になっている。 ～と～において～から～。～と～により、～は～から～。 したがって、～。	・辺 A と辺 B は平行（垂直）になっている。 ・△ABC と△CDA において、AC は共通であり、平行線の錯角は等しいから、∠BCA＝∠DAC…①、∠BAC＝∠DCA…②。①②より△ABC≡△CDA。したがって AB＝DC である。
	③活用する 解決する 応用する 新たな課題を発見する	他にも～たいことはあるか。 ～をもとに～。 生かす・深める。 応用・利用・活用 課題・解決・探究	・他にも調べたい地域はあるか。 ・これまで学んできたことをもとに、未来の～ ・学んだことを生かし、次の～を説明しよう。 ・基本の作図を利用していろいろな作図を～ ・資料を活用してこの課題を解決するための～

参考：「教科につながる学習」の指導例

【参考】一般財団法人波多野ファミリスクール作成資料
【作成】日本語指導が必要な児童生徒を対象とした指導の在り方に関する検討会議

指導者は、学習活動で使われる重要な「語句・表現」とは何かを把握し、教科学習の際にその日本語の指導を心がけること。

【指導例】（東京書籍中学「新しい数学１」より）



たしかめ 1　上の数直線で，点 A，B，C に対応する数をいいなさい。

正の数・負の数の概念を指導したあと、この問題を解く場面での指導例。

１）まず易しい日本語で題意を説明する。

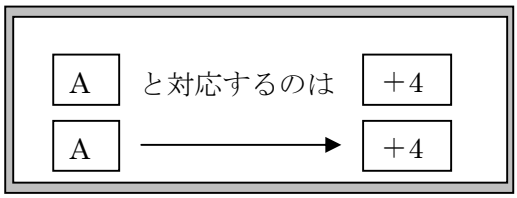
これ（数直線）で、Ａはいくつですか。そう、Ａは＋４ですね。

２）解き方について誘導的な指導をする。

では、Ｂはいくつでしょうか。＋２と＋３の真ん中ですね。
２と３の真ん中ということは、２点いくつですか。
２．１　２．２　２．３　２．４　２．５…？　いくつ？
そう、２．５ですね。　＋２．５ですか。－２．５ですか。
次です。Ｃはいくつですか。
－５と－６の間ですね。難しければ、５と６の真ん中で考えましょう。
そう、５．５ですね。ここはマイナスの線の上ですから、
答えは－５．５です。

３）日本語の指導をする。

これは線ですね。まっすぐな線を直線といいますが、知っていますか。
数が書いてある線だから「数直線」といいます。大切な言葉なので覚えましょう。
もう一つ大切な言葉があります。それは「対応する」という言葉です。
難しい言葉ですが、対応するとは、こういう意味です。



板書をして説明。
Ｂ、Ｃも図示して説明する。

相似の図形を用いて、それぞれの点や辺を対応させる課題を通して
「～と対応するのは～。」という言い方の理解を深める。

★このように「日本語と教科の統合学習」をするためには、指導者において学習活動と密接不可分な日本語に関する知識が必要である。